

**Q 3 : 学級活動の内容 (2) における事前・事後指導の留意点について教えてほしい。**

A : 学級活動の内容 (2) では、学級での話し合いを生かし、自己の課題を解決するために意思決定して実践することに自主的、実践的に取り組むことを通して、児童生徒の自己指導能力を育成する。授業は「つかむ→さぐる→見付ける→決める」という過程を基本として行うが、授業を活性化し、児童生徒の自己指導能力を着実に育むためにも、事前・事後指導の充実が求められる。

事前指導では、題材を提示したりアンケートを実施したりして、問題にしようとする事柄に児童生徒自身が目を向け、問題意識をもち、そのことが自分にとっても課題になると捉えられるようにする。また、児童生徒の実態に即した指導にするため、事前に教師が指導構想をもつようにする。

事後指導では、「自分もやればできる」という自己効力感がもてるようにする。そのために、児童生徒が目標実現に取り組む姿を認め、励まし、成果を上げることができるよう指導する。

以下に、詳細や具体例を示す。

**1 問題意識を高める事前指導**

**(1) 題材提示と事前調査**

**① 事前の題材提示**

朝の会などで事前に題材を提示することで、児童生徒が事前にその事柄に目を向け、学習への関心や問題意識を高めて本時に臨むことができるようにする。

**② 事前調査**

教師が行うだけでなく、「みんなはどう思っているのか。どうしているのか。」という疑問を原動力に、学年によっては、児童生徒自身が事前に調査することで、問題意識が高まることを期待できる。

<事前調査の方法例>

○アンケート (※下は小学校の例)

○インタビュー

- ・アンケートに比べ、回答者の思いや考えを詳しく調査することができる。
- ・アンケートと併用することができる。
- ・内容によっては、保護者などに協力を得ることも考えられる。

○映像・写真・音声による記録

- ・視覚的・聴覚的に実態を客観視できる効果が期待できる。

○本やインターネットで調べる など

単に連絡事項として扱うのではなく、児童生徒に問いかける形で提示するなど工夫する。

**学びゆう活どう「すてきなことば」アンケート**

3年 組 ( )

◆自分のことをふりかえりましょう。 当てはまる方に○をつけましょう。

①友だちにいやなことばを言うことがありますか。	はい  いいえ
・言ったときどんな気持ちになりますか。	-----
-----	-----
②友だちからいやなことをばを言われたことがありますか。	はい  いいえ
・言われたときどんな気持ちになりますか。	-----
-----	-----

学年や内容によっては、4段階 (例：そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない) などにもすることも考えられる。

題材について思うことや相談したいことを書く欄を作ったり、選択式の設問したりするなど、児童生徒の実態や内容に合わせて工夫することができる。

**(2) 資料の作成**

上記の事前調査の結果を集計したり、グラフや表にまとめたりする。高学年以上では、児童生徒が教師と共にその作業をすることにより、児童生徒の主体的な活動を生かすことになり、問題意識を高めることになる。

教師は、事前に児童生徒の実態に応じた指導展開を構想する。その際、以下のような視点で児童生徒の実態を捉えるようにする。

<児童生徒の実態をつかむ視点>

- ・問題はどの程度なのか
- ・問題を起こす原因は何か
- ・問題はどのような時にどこで起こるのか

## 2 目標実現への意欲を高める事後指導

### (1) 児童生徒自身による振り返り

#### ① 「がんばりカード」を活用する

「がんばりカード」は、各自が個人目標を常に意識して行動し、振り返るためのものである。日々、努力する様子が分かるように活用の仕方を工夫し、実践意欲の継続化を図るようにする。

学びゅう活どう「すてきなことば」

### がんばりカード

3年 組 (      )

わたしがきめた目ひょう (数字を入れて書こう)  
 (       いつ      ) うれしいことがあったときやがんばっている友だちを見つけたとき  
 (どんなふう) すぐに「ありがとう」や「すごいね」「がんばっているね」など、1日3回は  
 (       何を      ) あい手に聞こえるように言う。

自分の行どうをふりかえろう (できたら色をぬる)

5/15(火)	5/16(水)	5/17(木)	5/18(金)	5/21(月)	5/22(火)
★	★	★	★	☆	★

行どうをふりかえって、自分ががんばることができたところやよくなったところを書こう。  
月曜日は、1日2回しか言えなかった。でも、ほかの日は目ひょうをたっせいすることができた。はじめたころは、少しはずかしいかんじがしたけれど、やっている、あい手もよるこんでくれるので、すごく気持ちよかった。友だちもわたしに「ありがとう」と言ってくれることがふえて、とてもよかったと思う。これからもつづけていこうと思う。

頑張ることを決めるだけに終わらずに、その後の行動を振り返り、努力や成果の足跡を残す。

先生から  
〇〇さんの行どうを見ていて、とても明るく元気な声で、きめためあてをじっ行しようとしているのが分かり、先生はとてもうれしかったです。今まで言えていなかったことでも、自分できめてがんばることのできるようになります。これからも教室にみんながうれしく楽しくなることばをふやしていきましょう。

時には教室の壁面に一定期間掲示し、互いに認め合い励まし合えるよう工夫する。

#### ② 児童生徒が互いに認め合う場を設定する

個々の努力を互いに認め合い励まし合うなど、みんなで振り返るようにする。一定期間取り組んだら、帰りの会などで振り返りの話合いをする。これにより、実践の継続化や日常化、共感的な人間関係づくりにつながる。一方、成果が実感できていない児童も、個人目標を修正したり、実践への意欲が高まったりするきっかけになる。

競争をあおり、賞罰を与えたり、一部の児童生徒を批判したりしないようにする。

### (2) 教師による励ましや評価

実践状況に応じて、個別に励ましや賞賛、アドバイスなどをする。みんなで振り返った際には、個々の頑張りを取り上げながら、学級全体としての高まりにも触れ、生活改善の成果が実感できるようにする。また、学年・学級通信等で児童生徒の努力の様子を伝えるなど、家庭と連携することでより効果を高めることができる。

目標が未達成であったり、共通の問題が解決できたと言える状態でなかったりしても、「努力した成果があった」「よい方向に向かっている」という見方や考え方を教師が大切にすることで、児童生徒も「努力することは大切」と考えられるようになり、自己指導能力を育むことにつながる。

学級の実態や児童生徒の発達の段階などを考慮して、児童生徒が主体的に取り組めるよう、本時の授業だけでなく事前指導・事後指導の中においても効果的な指導方法を工夫し、児童生徒の自己指導能力を育みたい。

#### 【参考資料】

- ・ 指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」 H26.6 国 研
- ・ 小学校学習指導要領解説 特別活動編 H29.7 文科省
- ・ 中学校学習指導要領解説 特別活動編 H29.7 文科省